

第 12 回豊川市地域公共交通会議議事録

- 1 日 時：平成 24 年 3 月 23 日（金）
午後 1 時 30 分～午後 3 時 45 分
- 2 場 所：豊川市勤労福祉会館 視聴覚室
- 3 出席者：戸田智雄委員（愛知県地域振興部交通対策課 勝野洋一代理出席）
村松哲二委員（豊鉄バス株式会社 富安隆徳代理出席）
清水康朗委員（豊鉄タクシー株式会社）
長崎三千男委員（社団法人愛知県バス協会 伊藤秀雄代理出席）
鈴木榮一委員（愛知県タクシー協会豊川蒲郡支部 鈴木香野代理出席）
黒寄洋右委員（豊川市連区長会）
小林 進委員（一宮地区区長会）
渡辺晴美委員（音羽連区）
大場敏夫委員（御津連区）
諸永敬典委員（小坂井連区）
鈴木 至委員（豊川市老人クラブ連合会）
伊奈克美委員（（特非）とよかわ子育てネット）
中野瑤紀子委員（こすもすの会）
西尾和晴委員（中部運輸局愛知運輸支局）
長坂和俊委員（愛知県交通運輸産業労働組合協議会）
村田裕昭委員（愛知県東三河建設事務所）
栗名利幸委員（愛知県豊川警察署 大久保歩代理出席）
伊豆原浩二委員（名古屋産業大学）
廣島康裕委員（豊橋技術科学大学）
山脇 実委員（豊川市長）
竹下一正委員（市市民部長）
田口真彦委員（市健康福祉部長）
竹本和男委員（市建設部長）
- 4 欠席者：稲垣委員
- 5 事務局：近藤市民部次長、飛田地域安心課長、大高課長補佐、黒田係長、杉下主任、梅田
- 6 傍聴人：6 人
- 7 次 第
 - (1) 報告事項
 - ア 豊川市コミュニティバスの利用状況について
 - イ バス利用者アンケート調査結果について
 - (2) 協議事項
 - ア 地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価（案）について
 - イ 来年度の事業及び予算案について
 - ウ 現行路線の課題に対する対応策について
 - (3) その他

8 議事内容

事務局： 本日はお忙しい中お集まりいただき、誠にありがとうございます。本日の会議には、傍聴を希望される方がお見えです。今回の議題の内容をみましても傍聴に差し支えないと思われるので、事務局の判断で今回の会議は公開とさせていただきますのでご了承をお願いします。なお本日は、中部地方整備局名古屋国道事務所の稲垣委員が欠席です。また、愛知県の戸田委員の代理として勝野様、豊鉄バス株式会社の村松委員の代理として富安様、愛知県バス協会の長崎委員の代理として伊藤様、愛知県タクシー協会の鈴木委員の代理として鈴木様、愛知県豊川警察署の栗名委員の代理として大久保様に出席いただいています。それでは、これより第 12 回豊川市地域公共交通会議を開催します。はじめに会長である山脇市長から一言ご挨拶させていただきます。

市長： 本日は、委員の皆様方におかれましては、年度末の大変お忙しい中、また足元も悪い中、ご出席いただきまことにありがとうございます。本日の会議は、平成 23 年度最後の地域公共交通会議になります。この 1 年間、委員の皆さまには、大変お世話になりありがとうございました。皆様に真摯なご検討を賜りまして、昨年 11 月には、市内バス路線を再編し、豊川市コミュニティバス 9 路線の実証運行を開始できましたことを重ねてお礼申し上げます。実証運行を開始して 4 ヶ月が経過しました。各路線の利用状況については、2 月までに約 21,600 名の方が豊川市コミュニティバスを利用されています。今後も多くの皆様に利用されるバスであり続けるために、利用促進などの取り組みが必要となります。また、平成 25 年 5 月には、新市民病院の移転・開院を迎えます。新市民病院への交通アクセスを確保することが大きな課題となり、この会議が引き続き重要な役割を果たすものと考えています。本日の会議では、アンケート調査の報告や、現行路線の課題に対する対応策などについて協議をお願いすることになりますが、多くの市民の皆様から利用されるバス路線とするために、本日も委員の皆さまから貴重なご意見、ご議論を賜りますようお願いいたし、簡単ですが、あいさつとさせていただきます。どうぞよろしくようお願いいたします。

事務局： なお、山脇市長はこれから次の公務のため、ここで退席させていただきます。
(市長退席)

事務局： それでは座長、進行をよろしく申し上げます。

座長： 始めに本日の議事録署名人を指名します。本日は、豊橋技術科学大学の廣島委員と愛知県の戸田委員の代理の勝野様にお願いします。では、報告事項「豊川市コミュニティバスの利用状況」について、事務局から説明をお願いします。

事務局： 運行開始した 11 月の利用者数 5,838 人から、12 月、1 月は減っていましたが 2 月は 1 月に比べると約 450 名増加し、2 月までの総利用者数は 21,587 名です。路線単位で見ると、合計で一番利用者数が多い路線は、一宮地区地域路線で 3,136 人、1 日あたりの利用が 47 名です。利用者の少ない路線は御津線で 1,308 人、1 日あたりの利用が 11 人です。また、一便あたりの平均利用者数が多い路線は、一宮地域路線で一便あたり 6 人、次いで一宮線の 3 人です。他の路線については一便あたりの利用者数が 2 人以下です。乗継券の発行枚数は、豊川国府線とゆうあいの里小坂井線との乗継、音羽線から音羽地域路線への乗継、御津線から豊川国府線との乗継で発行が多い状況です。ジャンボタクシーは、利用者が車両に乗りきれない場合に車両を追加して運行しますが、2 月までに 99 回追加運行を行い、一宮地域路線での追加運行が非常に多い状況です。バス停別の利用状況をととして、交通結節点の豊川駅、国府駅、豊川体育館前バス停、主要施設のいかまい館、本宮の湯、ゆうあいの里バス停、名電赤坂駅バス停での乗車人数が多く

なっています。路線ごとの利用状況として、最初に豊川国府線は、国府駅、豊川駅前、豊川体育館前、豊川養護学校バス停での乗車人数が多い状況です。1日あたりのバス停間の通過人数は、1人から5人未満で運行している区間が多いですが、上宿から豊川養護学校方面への区間は、1日あたりのバス停間の通過人数が5人から10人未満となり、他の区間よりも多くの方がバスに乗って通過しています。1日あたりの平均利用者数は、国府駅行では水曜から土曜日までの利用が多く、豊川駅行では水曜日が他の曜日に比べ利用が多い状況です。便ごとの平均利用者数は、どの便も1便あたり2名をきる利用者数ですが、国府駅行きでは1便から4便までの利用が多く、豊川駅行きでは3便の利用が多くなっています。国府駅～豊川養護学校系統の利用状況について、養護学校行、国府駅行ともに平日の利用者数と土曜・日曜の利用者数の差が大きくなっています。便別の養護学校行きは、午前の1、2便の利用、国府駅行きは午後の3便の利用が多く、養護学校生の利用が多くを占めています。次に千両三上線で乗車の多いバス停は、豊川駅前、三蔵子バス停で、豊川駅東口から本野バス停間では、他の区間に比べ、バスに乗って移動・通過している人が多く、当古町から三上地区市民館のバス停間では少ない状況です。便ごとの平均利用者数は三上行きの2、3便の午前便の利用が多くなっています。次にゆうあいの里小坂井線について乗車の多いバス停は、ゆうあいの里、豊川体育館前、市民病院、西小坂井駅です。また、豊川体育館前からゆうあいの里バス停間の方が西小坂井から豊川体育館前バス停間よりも、移動・通過している人が多くなっています。1日あたりの平均利用者数は、月曜日の利用者数は他の曜日に比べて少なくなっています。便別の利用者数を見ると西小坂井行きは5便の利用、ゆうあいの里行きは午前の1・2便の利用が多くなっています。一宮線で乗車の多いバス停は、起・終点の豊川駅前と本宮の湯バス停です。そのため、全区間でバス停間の通過人員が多くなっています。1日あたりの平均利用者数は、本宮の湯行きでは、火・金曜日の利用者数が増えていて、日曜日の利用者が減っています。豊川駅行きは、木・土曜日に多く利用されていますが、こちらも日曜日の利用が減っている状況です。便別の利用者数として、本宮の湯行きは午前1・2便、豊川駅行きは午後の3便の利用が多くなっています。次に音羽線で乗車の多いバス停は、グリーンヒル音羽、音羽支所、国府駅です。1日あたりの平均利用者数を見ると音羽行きでは月曜日、国府駅（市役所）行きでは木曜日の利用が多くなっています。便別の利用者数は、第5便までの利用割合が高く、6便以降については利用がかなり少ない状況です。次に御津線で乗車の多いバス停は、国府駅、愛知御津駅、あかね児童館です。利用者数が少ないため、バス停間の通過人数が少ない状況です。1日あたりの平均利用者数は、国府駅・市役所行きでは、金・土曜日の利用が多くなっています。便別の平均利用者数は、どの便も平均利用者数は2人を切っている状況ですが、国府駅・市役所行きでは、1・2・5便に利用する割合が高く、御津行は第5便を利用する割合が高くなっています。続いて音羽地区地域路線の利用状況について、乗車の多いバス停は名電赤坂駅、赤坂台保育園、ジャルダンリラです。通過人員は赤坂台市民館から室公園バス停間で多くなっています。1日あたりの平均利用者数では、大林行き・赤坂台行きともに平日に利用する割合が高く、火・木・金の利用者が多くなっています。便別の利用者数は、大林行きは2便、赤坂台行きは2・7便の利用する割合が高くなっていますが、ともに8便については利用が少ない状況です。次に御津地域路線について、利用の多いバス停は愛知御津駅です。金野北部小線は利用が多いですが、その他の系統については利用者が少ないため、バス停間の通過人員も少ない状況です。赤根大草線と金野豊沢線の1日あたりの平均利用者数について、赤根大草線は1月まで全ての曜日で

利用が少ない状況でしたが、2月はどの曜日も利用者数が増えています。下佐脇御馬線と上佐脇広石線の1日あたりの平均利用者数を見ると、下佐脇御馬線よりも上佐脇広石線を利用する割合が多くなっています。1便あたりの平均利用者数を見ると、金野北部小線を除く各系統とも、平均利用者数が2人を割り込むことが多くなっています。次に一宮地域路線について、利用の多いバス停は、いかまい館、旧二部公会堂前、金沢構造改善センターです。西回り、東回りともに利用者数は多いですが、西回りではバス停間の通過人数が、1日平均10名以上です。1日あたりの平均利用者数は、西回りではどの曜日も1日平均30名程度、東回りでは1日平均10名以上の利用実績があります。便別の平均利用者数を見ると、西回りでは4便の利用が比較的多く、東回りでは1便と3便の利用が多く、2・4便との利用者数の差が大きくなっている状況です。

座長： ただいまの説明に関して何かご意見ご質問等ありますか。

委員： 豊川国府線という中心的な路線の利用実績が、1便あたり2名ほどと他の路線と変わらないことについて事務局としてどうお感じになっていませんか。逆に一宮地域路線は非常に利用者が多いですが、地域での特別な取り組みがあったからなのですか。また、かなり追加便が多いという状況の対策等は考えていますか。

事務局： 豊川国府線は利用者が少ないので、今後利用促進を重点的に行っていきます。一宮地区地域路線は、温泉施設へ行かれる方が多く利用しています。これは地域協議会での利用促進の働きかけのおかげで、たくさんご利用いただいています。便によっては人が重なり、タクシーを配車することが多い状況です。こちらの課題は地域協議会と豊川市で一緒になって今後検討していく課題であると認識しています。

委員： 音羽線や御津線は、国府駅から市役所までを豊川国府線に乗り入れてきています。乗車人員のカウントはそれぞれ路線単位でのカウントをされているようですが、区間単位でカウントした方がいいのではないのでしょうか。

事務局： おっしゃるとおり今回のカウントの仕方は、合計値ではなく国府駅から市役所間は、音羽線は音羽線としてカウント、御津線は御津線として路線単位でカウントしており、豊川国府線は豊川国府線だけでまとめてあります。音羽線、御津線も、国府駅と豊川市役所間においても、利用者が少ない区間が殆どとなっています。

座長： 利用状況には月変動があります。気候の関係もありますが、利用者情報等、今後分析が必要です。日常的な遅延などに関する運行状況についてはいかがですか。

事務局： 11月1日の運行初日に東名高速事故による市中心部の大渋滞で、1時間半の遅れが起きました。それ以降は基本的には時間通り運行できています。ゆうあいの里小坂井線が、朝1番の便が1号線を横切るために、慢性的に遅れており、今回協議事項として対応をさせていただきたいと思います。

座長： 他にございますか。それでは「バス利用者アンケート調査結果」について、事務局から説明をお願いします。

事務局： まず調査票の回収率について、基幹路線と地域路線では39%、新豊線・豊川線では49%、全体では43%でした。バスの利用目的について全体の数値を見ると、通勤・通院目的で利用する割合が高くなっていますが、コミュニティバスでは、通院・買い物目的で利用する割合が半分を占めています。路線別の利用目的として、豊川国府線・千両三上線・ゆうあいの里小坂井線・一宮線では娯楽・社交目的の利用が多く、音羽線では通院目的の利用が多くなっています。路線別の往復の利用状況ですが、ゆうあいの里小坂井線、一宮線、音羽地区地域路線、一宮地区地域路線は行き帰りとも利用する割合が高くなっていますが、千両三上線、音羽線、御津地区地域路線は、行き又は帰りだけ利用した人

の占める割合が高くなっています。主な外出先で最も多かったのは、市民病院で全体の約 10%を占めています。次いで本宮の湯、いかまい館、イオン豊川店が続いています。乗車数の多かったバス停、降車数の多かったバス停では、乗車・降車ともに豊川駅前と回答された方の割合が高く、乗車では全体の 12.5%占めています。降車数の多いバス停では、豊川駅前のほか豊川体育館前、国府駅、豊川市民病院前となり、4ヶ所のバス停で全体の約 30%を占めています。次にコミュニティバスに対する評価は、全体的に各項目で「良い」「普通」と回答された方の割合が 60%を越えていますが、運賃の加算、1日の運行本数、終発便の時刻については、「良い」「普通」と回答される方の占める割合が低くなっています。コミュニティバスの評価については、普通運賃、運行ダイヤの正確さ、バス停の設置位置、車両の識別のしやすさの項目で「良い」「普通」と回答される方の占める割合が高くなっている一方、1日の運行本数、終発便の時刻、運行ルートでは「悪い」と回答された方の数が多くなっています。また、乗継券の使いやすさについては、「わからない」と回答される方の割合が 50%を越えています。ほとんどの項目で以前からバスを利用している方よりも、今までバスを使っていなかった方の評価のほうが高くなっています。これまでバスを利用していた方の評価は、運賃の加算、1日の運行本数、終発便の時刻について、平均点の 2 点を下回っており、満足度が低くなっています。また、これまでバスを使っていなかった方の評価も、1日の運行本数、終発便の時刻に対する評価が平均点を下回っています。運行開始後の利便性について、不便になったと感じている方は、運賃の割引、車両の識別のしやすさ以外で平均点を下回っています。便利になったと感じている方は 1 日の運行本数以外の項目で、平均点よりも高い評価になっています。利便性に対する各路線の評価として、千両三上線、一宮線、御津線については、運行が開始されたことにより「便利になった」と回答された方の占める割合が高くなっていますが、豊川国府線、音羽地域路線、御津地域路線では、「不便になった」と回答された方の割合が高くなっています。運行開始後の外出頻度の変化については、各路線とも「変わらない」と答えた方の占める割合が高くなっていますが、一宮線・音羽線・御津線では「外出が増えた」と回答された方の割合も高くなっています。一方でゆうあいの里小坂井線・音羽地域路線では、「外出が減った」と回答された方の割合が多いです。回答者の属性は、70 代、80 代の女性の利用者が多い結果となっています。コミュニティバスの利用頻度は、「週 1～2 日」と回答された方が多く、次いで「月 1～2 日利用」される方の占める割合が高くなっています。各路線の利用者について、コミュニティバス運行開始まで「バスを利用していた人」と「バスを利用していなかった人」の割合として、豊川市コミュニティバス全体では、これまでバスを利用していた人が利用している割合が 60%ほどを占めていますが、千両三上線、一宮線、御津線では、今までバスを使っていない方が利用している割合が高くなっています。一方地域路線については、これまでバスを利用していた方が利用している割合が高くなっています。これまでに利用したことのあるバス路線は、多い順に豊川国府線、音羽線、千両三上線、御津線となっています。運行開始の知り方については、「広報とよかわやバスマップ・時刻表を見て知った」と回答された方が多く、続いて「走っているバスや設置したバス停を見て運行を知った」と回答された方が多くなっています。最後に自由意見としては、新規バス路線・バス停に関する意見が半数を占めており、運行時間帯・運行本数に関する意見、バスの乗務員に対する意見もありました。

座長： アンケート調査の結果を踏まえて、ご意見ご質問ございませんか。

委員： アンケート調査の結果から、終発便の見直しが必要ではないかと思えます。一宮線に

ついて職業訓練校にバス停を設置してありますが、そこの利用者の方からもう5分終発が遅かったら利用できるのにと声を聞いています。豊橋駅まで接続しているため、ダイヤ編成について大掛かりな編成が必要になると思いますが、そのあたりを豊鉄バスさんの方で、どのように対応していただけるのでしょうか。

代理：それが可能かどうか一度持ち帰って検討してみたいと思いますが、すべてのダイヤが豊橋駅へ接続していますので、そちらの利便性も重視していかなくてはならず、調節が必要な部分も出てきますので、慎重に対処したいと考えています。

委員：運行開始の知り方で、連区では市からいただいたマップを配布したり、説明会へ出席したりしましたが、もう少しやり方も考え、連区としても幅広く説明して、うまく広報活動が行えるよう働きかけていきたいと思っています。

座長：やはり次のステップは口コミだと思います。一度乗ってみようという言葉をかけていただけるようお願いしたいと思っています。

委員：音羽地域路線と御津地域路線、豊川国府線は不便になったというご意見が多いということですが、具体的には何か特徴があるのでしょうか。

事務局：豊川国府線では、国府駅から直接ゆうあいの里へ行けなくなったことが一番の理由だと思います。現在は諏訪からゆうあいの里へ行けるようになり、利用が多い状況です。運行開始前のニーズ調査では、諏訪周辺からゆうあいの里方面への要望が多かったため、調査での意向とは一致したと事務局は思っています。ただそれに伴い、国府からゆうあいの里へ直接行けなくなったことに対するご意見等をいただいているので、十分現状を承知しながら見直しの際には考えていきます。音羽地域路線では、音羽支所までしか行けないため、国府駅へ行く要望のある方が乗継に関して手間になっていると考えられます。御津地区も以前福祉乗合タクシーが走っていましたが、路線やバス停も見直したので、それと比較して今回の評価になったのではないかと思います。

座長：乗継券について「わからない」という回答が多いので、考えなくてはいけないと思います。私は今回の料金の仕組みを非常に評価していますが、それが、利用者にわかりにくいということが気になっています。

事務局：運賃はみなさん思った以上に好意的に捉えていただいていると思います。初乗り200円、乗継券使用でプラス100円の300円は、他市に比べると若干高いですが、市が負担する金額はいくらまでだというご意見もありました。その中で、今回のゾーン制を、市民の方にある程度理解されたと思います。ただ、乗継ぎの仕方については、まず慣れていただかなくてはいけないですが、車両に乗継方法を掲示したり、運転手にも協力してもらい、市でも積極的にPRしなくてはならないと思います。

委員：高齢の女性利用者が多いということもあり、車内表示として行き先が書いてないのは不安です。行き先がいくつ先のバス停なのかわかるものが車内にあれば利用者の気持ちに余裕ができると思います。そしてバス停ですが、日が暮れるとバス停の位置がわかりません。時刻表の字も小さくて見えません。マイ時刻表のようなものを行政が作った方がいいのではないかと思います。私たちボランティアは、〇〇から□□へ行きたいと聞けば時刻表を作ってあげられるのですが、みんなが使いやすい方法を、私たちも努力しますし、一緒になって行政の方も応援していただきたいと思っています。

事務局：今回がスタートということで、9路線全部を載せなくてはならないという命題がありました。やはり見にくさは感じていますが、バスを知っていただくことをメインに作成しました。今後時刻表等の改正をする際には、皆さんに使いやすいものとなるよう検討します。また、催しを行う際のチラシにバスの時刻を載せていただいております。嬉しく感

じています。市の方でも地道に取り組んでいき、皆さんの目に留まるようにしていけたらと思います。

座 長： 使って初めて不便な部分もわかります。予算も限られていますので、利用者からの意見を聞き、上手修正してください。マップについては、良い先進事例もありますので、参考にして改善して下さい。運転手に関しても行政の委託運行ですから、事業者さんともお話いただくことが大切です。

委 員： 豊川国府線の配布数が22で、8しか回収できなかったのが少し残念です。一日20人近く乗っている路線で配布期間が2日間ですから、もう少し配布いただければよかったですと思います

事務局： 来年度もアンケートをやりますので、その際には各路線同じくらいの数を配れるよう努力します。豊川国府線は2日間の配布ということもありましたが、利用者の方が、前日受け取っている答えると無理にお願いしていなかったこともあり、ひょっとしたら、2日間続けて利用した方が多かったということもあるかもしれません。

座 長： アンケートは大切ですが、やはり高齢の方は文字が小さいと回答することが難しくなってしまうので、同じアンケートをするにも工夫が必要です。現時点ですべて評価することはいかないですから、今回のアンケートは改善へのステップとして捉えていくべきだと思います。それでは協議事項に移ります。事務局お願いします。

事務局： 協議事項「地域公共交通確保維持改善事業の事業評価（案）」について説明します。豊川市コミュニティバスの一部の路線は、国の補助メニューである地域公共交通確保維持改善事業費補助金制度を活用しており、地域公共交通会議で事業評価を行い、4月にその評価結果を中部運輸局愛知運輸支局に報告することになっています。最初に補助対象事業者等については、運行事業者名と補助対象路線である豊川国府線、千両三上線、ゆうあいの里小坂井線、音羽線、御津線、一宮地区地域路線の6路線7系統を記載しています。評価として、最初に事業実施の適切性について、運行開始日を10月1日から11月1日に変更しましたが、その他は計画どおり実施されたので、評価をAとしています。次に目標・効果達成状況について、本来ならば生活交通ネットワーク計画で設定した利用者数、公共交通の利便性の満足度の向上、地域路線の運行実施地域数の増加、収支率という4つの項目で評価をしていくこととなりますが、運行開始から期間が短いため、現時点では収支率、満足度からの評価は難しく、地域路線の運行実施地域数についても補助対象路線を評価する項目としては異なるものと思われるため、今回は実績数値が出ている利用者数を用いて評価しました。ネットワーク計画に定めている短期計画期間の平成25年度の目標利用者数は、コミュニティバス全体で90,000人に設定していますが、今回の事業評価は豊川市コミュニティバスの一部の路線を評価しますので、各路線の目標利用者数に対する評価を行っています。豊川国府線の場合、目標利用者数が1日60人、運行4ヶ月間の実績から1日の平均利用者数が24人なので達成状況は40%です。その他の路線も同様に示していますが、現時点で目標を達成している路線は、一宮地区地域路線だけで、評価はBとしています。達成できていない理由・原因等については、運行開始から間もないため現時点で明確になっていませんが、来年度以降に調査を実施し分析を行います。次に事業の今後の改善点についてですが、最初に豊川市コミュニティバス全体の改善点として、平成25年5月に移転する新市民病院への交通アクセスを確保するために、路線の見直しを行うことを載せています。次に現時点で課題などがある路線の改善点を記載しています。ゆうあいの里小坂井線は、通勤時間帯の運行に遅れが生じているので、ダイヤを見直し定時性を確保する、音羽線は、地域住民の移動手段

を確保するために一部ルートの見直しを行う、一宮地区地域路線は、定員超過時の追加運行が多いため、運行ルートなどを見直しを行うことを記載しています。以上の内容を事業評価として提出させていただきたいと思いますが、今回の案に記載されている利用者数は2月までの利用実績を基に作成しているので、提出時には3月の実績を踏まえ差替えること、提出後の修正、運輸局との調整等については、事務局に一任していただくことも含めご承認をお願いします。また事業評価の結果は、次回以降の会議で報告します。

座 長： ただいまの説明についてご意見ご質問ございませんか。

委 員： 改善点とは視点が違うかもしれませんが、今後の取り組みという位置づけにおいて、PRに力を入れていくということも記載いただくことをご検討ください。

座 長： 運行計画だけの改善点ではなく、地域と一緒に市は利用促進をこのように行うという点を記述された方がいいと思います。今ご指摘いただいたことも含めて、表現、3月を含めた実績の数字等の修正点を事務局と私にお任せいただいて、評価をご承認いただいたということによろしいですか。

(異議なしの声あり)

座 長： それではご承認いただいたこととします。提出したものは、委員の皆様にお送りしたいと思います。それでは次の協議事項を事務局をお願いします。

事務局： 協議事項「来年度の事業及び予算案」について説明します。最初に来年度の事業概要ですが、平成24年度は、平成25年5月に予定されている新市民病院の移転・開院を考慮して、コミュニティバス全路線を対象に抜本的な見直し案を検討し、見直し後の運行準備を進めます。ただし、現在の運行路線でも課題があるので、一部見直しで対応できる課題については、抜本的な見直しを行う前に軽微な見直しを行い改善していきます。新市民病院移転に向けた取組として、最初にOD調査を含む利用実態調査を行い利用者の行動の把握やニーズを収集します。この調査結果と運行開始からの利用者数、運行経費等の実績から、基幹路線・地域路線の評価を行います。そして、コミュニティバス全路線を対象に見直し案を検討し、見直し後の運行計画をまとめる予定です。来年度も地域公共交通会議を4回ほど開催の予定ですのでお願いします。続いて「平成24年度豊川市地域公共交通会議歳入歳出予算書案」について説明します。平成24年度は、運行負担金や運行計画調査の業務委託費、バス停設置に係る工事などの事業は、豊川市が予算執行して事業者と契約を結びます。最初に歳入の1負担金及び補助金について、平成24年度は、豊川市から負担金として地域公共交通会議に1,130,000円入金されます。その下の2国庫補助金については運行事業者に補助金が交付され、交通会議には国庫補助金の入金がされないため0円です。次に2繰越金107,895,000円の内訳は、平成23年度の運行計画調査委託業務委託費、コミュニティバス運行負担金と平成23年度の地域公共交通会議の予算剰余金の合計額です。平成23年度の運行計画調査業務委託費とコミュニティバス運行負担金については、3月末まで事業を実施しており、支払いは4月以降になるので、平成23年度分の支払額を24年度予算に繰越してから支払います。平成23年度豊川市地域公共交通会議の剰余金についても、4月以降に金額が確定しますので、24年度予算に繰越して豊川市に戻ります。まだ繰越金額が確定していないため、今回見込額として示しています。そして預金利子で1,000円計上し、平成24年度歳入合計は、109,026,000円です。次に歳出について、1事業費1委託料については、繰越金のうち23年度の運行計画調査委託業務委託費の支払額6,510,000円を計上しています。24年度は、豊川市が予算を執行して入札を行い、運行計画調査業務委託先と契約を交わすため、交通会議での24年度分の調査業務委託費の予算額は0円です。次に2負

担金について、23年度コミュニティバス運行負担金の経費として47,000,000円を計上していますが、23年度の運行負担金の額は確定していませんので見込額です。24年度分については、委託料と同様に豊川市が運行事業者と協定書を結ぶため、交通会議の予算額としては0円です。なお、24年度の運行事業者は、引き続き豊鉄バス(株)と豊鉄タクシー(株)とすることを予定しています。次に3補助金については、前年度と同様に各地区地域協議会に対する活動を補助するために200,000円計上しています。次に3需用費については、利用促進に繋がる事業やイベントなどの実施に必要な消耗品や事務用品などの消耗品費として794,000円、利用促進イベント等を周知するためのチラシ作成の印刷製本費として136,000円計上しています。4工事請負費については委託料と同様に、24年度から豊川市が予算を執行し業者と契約を交わすため、交通会議の予算額としては0円です。次に5雑費1繰出金については、繰越された平成23年度の交通会議剰余金を豊川市に返戻するもので54,385,000円計上しています。繰出金の額は、現在23年度の歳入歳出決算額が確定していないので見込額です。予備費の1,000円と合わせて平成24年度の歳出額は109,026,000円です。歳入の繰越金額、歳出の委託料、負担金、繰出金は見込額で示していますので、金額確定後、次回の会議に平成23年度豊川市地域公共交通会議歳入歳出決算書と併せて、平成24年度交通会議予算の補正としてお示しします。平成24年度予算の地域協議会活動支援のための補助金、また、消耗品費のうち年度当初に必要とする事務局費の一部などの予算執行については、事務局に一任していただき、事務局長の専決にて執行させていただきますので、平成24年度予算案と併せてご承認をお願いします。

座長： 来年度の事業と予算について、ご意見ご質問はございますか。

委員： 表現で、新市民病院開院の際の抜本的な見直しに対する言葉だと思いますが、現行路線に対する軽微な見直しとあり、軽微という表現ではなく、必要ななどにした方がいいのではないかと思います。

事務局： 「一部見直し」、「必要な見直し」とします。

座長： その方がいいと思います。現時点では見込額となりますので、次の会議には決算をしていただくことになると思います。

委員： 利用促進事業費とありますが、どのようなものを予定されていますか。

事務局： どのようなことをやるかは、この会議で決めていただくことになります。今後事務局で下案を作ってお出し、この会議で検討していただきたいと思います。

座長： いろいろな視点から考えていただくことが必要だと思います。継続的にやっていけるような仕組みで予算をうまく使ってください。

委員： 補助対象路線だけではなく、地域を走るバス、これはコミュニティバスだけではなく豊鉄バスさんも含めてその評価検証をし、よりよいバスを作り上げていく取り組みを行ってください。来年度に限らず、引き続き事業を継続してほしいと思います。

座長： 全体の路線として検討していこうということをお願いしたいと思います。

委員： 地域ポータルサイトみてミンに載せていただき、出先からもダイヤが確認できるような工夫をするとか、何時に着きたいから、何時に乗ればよいということがインターネットで検索できたらよいと思います。報告を見ると、利用が多いバス停は目的地となるような、いかまい館、ゆうあいの里等です。催しが行われる文化会館や、保健センター等も目的地となるので、チラシを作る際にバスの時刻を記載してほしいです。大きな催しの際には、大変かも知れませんが、車両を大きいものに変えるとか本数を増やしていただけるといいと思います。

事務局： 時刻表は新豊線等も含めて、市のホームページからご覧いただけます。ポータルサイトからも見られるようにしていきたいと思います。チラシの配布や施設との連携については、今後もっと進めていきたいです。

委員： アンケート調査を行った1月の終わりは、高齢者が外出しにくい時期で、今後暖かくなればもっとバス利用者が増えるのではないかと思います。利用促進として、四季折々の自然の見所を知ることができれば、高齢者の散策の機会になると思いますので、そういったガイドもいただければと思います。

座長： 市役所でのイベントや会議は、ほぼ時間帯が決まっているので、バスダイヤの例を作っておけば担当者も使いやすいです。バスに乗って行けるという仕組みを作ることが大切です。他にいかがですか。それではこの予算案についてご承認いただいたということによろしいですか。

(異議なしの声あり)

座長： ご承認いただいたこととします。それでは次の協議事項を事務局お願いします。

事務局： 協議事項「現行路線の課題に対する対応策」について説明します。最初に千両三上線の課題について、起点・終点である三上地区市民館バス停は、保育園駐車場に隣接しており、駐車場が混雑する朝夕の送迎時間帯にバスが乗り入れ車両が待機することから、地元住民からバス停の移設の要望がありました。安全性を考慮して、一部ルートを変更し、バス停位置を公民館前から公民館の横に移設したいと思います。見直し時期はなるべく早期に対応したいと考えています。次にゆうあいの里小坂井線については、通勤時間帯の道路渋滞により運行ダイヤに乱れが生じています。運行の定時性を確保するためにダイヤの見直しを行いたいと考えています。見直しの時期は周知等の必要がありますが、なるべく早期に対応したいと考えています。次に音羽線についてですが、バス路線再編後に運行されなくなった地域から、運行の要望が多くあります。地域住民の交通手段の確保を図るために一部ルートの変更を行うことを検討しています。10月1日からの見直しを目指して、今後関係機関と調整を進めたいと思います。次に御津地区地域路線は、利用者の確保が課題となっており、協議会では老人会等に広報・周知を徹底する、時刻表を作成し地域住民に配布するなど、周知により利用促進を図ることを検討しています。運行内容については、運行開始から間もないため、今後の利用状況に応じ見直しを行いますが、当面は、利用が見込まれる地域での行事開催時に臨時便を運行し利用者の増加を図ります。そして御津地区地域路線に関連する内容になりますが、国道23号線豊橋バイパスの工事により、4月から11月まで下佐脇・広石線の愛知御津駅から東新屋集会所バス停間のルートの一部で通行止めになります。今回のルートは、工事による暫定的な迂回ルートになりますが、今後の工事状況によっては、運行ルートの見直しが必要になります。ルートの見直しが必要な場合は、地域協議会で変更案を検討し、まとまりましたら、次回以降の会議でお示しします。次に一宮地区地域路線の課題として、定員超過により追加運行回数が多く発生し、運行経費の増加や利用者の追加車両を待つ時間の負担が大きくなっています。そのため、ルートの見直しによる定員超過の回避、そして、フリー乗降区間を設定することで利用者の利便性向上を図ることを検討しています。見直しの時期については24年の10月の予定です。音羽地区地域路線については、運行していない地域住民の移動手段の確保が課題となっており、現在利用実績の少ないバス停間での運行見直しを含めルートの検討を行っています。今後この内容を基に協議会で検討を進め、24年10月からの変更を目指しています。最後に、西部中学校区の御油地区で4番目の地域協議会が12月に設立されました。協議会は31名で構成され、運

行開始の時期は現在未定ですが、ジャンボタクシーを利用しての定時定路線型の毎日運行、運賃は1乗車200円を基本料金とし、ゾーン制運賃を採用して基幹路線との乗継割引を適用、ルートは国府駅と御油地区内を結ぶ経路案を基に検討を進めています。地域協議会の検討状況は、次回会議で報告します。本日の内容でよろしければ、今後詳細について、関係機関等と調整を進めさせていただきます。

座長： ただいまの説明について、ご意見ご質問はございますか。千両三上線とゆうあいの里小坂井線の件はご承認後すぐに動きたいということですがいかがですか。

(異議なしの声あり)

座長： 通行止めによる御津地区地域路線のルート変更も、お示しいただいたルートで運行したいということはいかがですか。

(異議なしの声あり)

座長： 早期に見直すことについてはご同意いただきました。あとは秋に向かって検討し、協議が整い次第ということよろしいですか。

(異議なしの声あり)

座長： 10月からの、音羽地域路線と一宮地域路線のルート変更ですが、地域でよく協議してから、次の会議でご報告いただき、もう一度議論したいと思います。それではその他についてお願いします。

(県から伊勢湾フェリーについての説明あり)

事務局： これで平成23年度の地域公共交通会議はすべて終了になります。皆様にはご多忙のところにもかかわらず、ご出席いただきありがとうございました。委員の皆様にご尽力いただきましたおかげをもちまして、今年度無事に実証運行を開始することができました。来年度は、運行の問題点の改善、新市民病院の移転・開院に向けた路線の見直しの検討などを進めることになるとと思いますが、引き続きご協力お願いいたします。次回は、6月頃開催の予定ですのでよろしくお願いいたします。

座長： 本日はこれで閉会にさせていただきますと思います。ありがとうございました。

(会議終了)